地域活性化へ行動

外山地区に明治期から大正期にあった宮内省所管の外山御料牧場。岩手の産業史を語る上で馬事文化の検証は欠かせません。大正期に廃止され移転したことで地元外山や玉山地区には往時の資料が残っていないことから、このたび宮内庁を訪問。長年の課題であった往時の資料を多数確認できました。これから地域活性化の突破口を開いてまいります。

宮内庁御料牧場（栃木県高根沢町）を訪問した際の一コマ

将来の盛岡に夢を

2030年代に冬季オリンピックを盛岡に招致したいと本気で考えております。

市議会で2度提言を行ったほか、札幌市や長野市への現地調査、アルベールビルやインスブルクなど海外の主会場地を視察して、盛岡での冬季オリンピック構想をまとめてきました。経済波及効果は2兆5000億円（長野冬季五輪と同額と見た場合）と期待されます。1年のうち8カ月は暖房器具を使用する寒冷地です。冬を生かすことが地域活性化のカギになります。2030年代にはスポーツ施設の更新の時期を迎えることから、街全体の新陳代謝をオリンピックを契機に実施する提案をまとめました。現在、ＮＰＯをたちあげ活動中です。

長野市の屋内スケートリンクを訪問した際の一コマ

鈴木一夫の経歴

●1969（昭和44）年11月生（45歳）
出生時本籍　盛岡市東見前
●二戸市私立福岡幼稚園、仙北小学校、仙北中学校、花巻北高等学校、法政大学文学部卒。
学卒後サラリーマンを経て、衆議院議員前原誠司秘書。
●2007（平成19）年より盛岡市議会議員（現在2期目）
教育福祉常任委員　委員
仙北二丁目自治会　会長
仙北地区体育協会　会長
盛岡舟っこ流し協賛会　事務局長
盛岡アマチュアマジシャンズクラブ　会長
民主党岩手県総支部連合会　男女共同参画委員長
●現在　会社役員
社会福祉法人　理事
一般財団法人　理事
■趣味/旅行
海外72カ国166都市訪問　国内市町村の99%訪問

ボランティア活動を行っております

鈴木一夫はマジックをしております。 写真はイリュージョンの様子。 種はあかせません（！）。
福祉施設や児童施設でマジックを披露するボランティア活動を展開中。 今後、技の数を増やしてまいります（笑）。

市政に関するご意見・ご要望は下記まで

■後援会事務所
〒020－0861岩手県盛岡市仙北2丁目23番24号
電話　019－635－8839　FAX　019－635－9176
Email　aap09710@hkg.odn.ne.jp
ホームページ　http://www.suzukikazuo.com/　鈴木一夫　検索
Facebook

未来への責任

45歳

すずき　かずお
鈴木一夫

後援会のしおり

鈴木一夫（すずき かずお）の特集

市政の論点（2015）

スローガンではなく、具体的な戦略と財政的裏付けを提起します。
対処療法・イベント・バラマキではない財源を伴った確かな政策論争で住民福祉の向上と街づくりへの提言活動を行っております。
下記の提言は、その一例です。2期8年で全ての議会に登壇し、市政全方位の政策論争を展開中。

51億円

**まちの進行管理政策の導入を!
バランスのよい
若者の定着促進策の実現**

盛岡市の児童生徒の数は33,557人（平成４年）から22,552人へ33%減少。土地の値段（時価）も2兆1千億円から1兆1千億円48%下落している時代に、新規の学校を**51億円**かけて建設（向中野小32.5億円、仙北中増築17億円、津志田小増築2億円）。

他方、この間10年で4校が閉校し、6校は複式学級に。空き教室は、81（小学校4校分）教室発生しております。

一方、市内の空き家率は14%です。年間2000棟の建築需要がありますが、新しい場所へ宅地造成することから転換を図り、既存市街地の空き家（更地化）へ建設の誘導をして、高齢者・若者がバランスよく居住できる「均衡ある発展」を提唱。

「焼き畑まちづくり」から「都市の進行管理政策」を浸透させ、若者がバランスよく地域に定着する提言を行っております。

成熟した社会では、機能よりデザインが重要。岩手山の眺望を確保する城下町らしさの街づくりと電線地中化の推進、住宅街を絵葉書にできる街並みづくりという景観力向上運動を提唱中。（平成27年3月議会 ほか）

73億円

**健康寿命の増進!
行政力と地域力の連携で
元気な社会の実現!**

盛岡市の高齢化率は23%。25年後の平成52年には36%3人に1人は65歳以上の高齢化社会になります。

今の地方は高齢化・人口減少・限界集落という後ろ向きな議論で覆われています。平均寿命延ばすことは世界の国の共通目標であり誇りに思うべきです。高齢化社会は元気な高齢者を増やす健康寿命の増進で前向きに乗り切っていく施策の展開が必要です。

健康寿命とは、平均寿命とは区別され、介護にたよらない年数を指します。平均寿命と健康寿命の差をどれだけ縮められるかが、自治体の健康政策にとって不可欠。福岡県が試算した健康寿命増進の財政効果の計算式を盛岡市に当てはめると10年で**73億円**の財政効果が試算されます。行政と地域、住民と医療機関との連携を図り健康寿命の増進策を提言してまいります。（平成26年3月議会 ほか）

520億円

**エネルギーの地産地消の
拡大で中小企業振興、
経済発展と環境対策の両立!**

日本は化石燃料を年間26兆円あまり海外から購入しております。岩手県のGDPは国内の1%ですから単純計算で2600億円、盛岡市のGDPを県内の5分の1と試算すると**520億円**の資金がエネルギーの確保のために海外に流出しております。この**520億円**を海外ではなく、盛岡広域、県内で循環することで経済波及・雇用拡大ができないか、という提言がエネルギーシフトの考え方です。

盛岡市の電力自給率は25%で、電力は市外県外へ依存しております。エネルギー自給率の向上は経済・環境対策に直結します。

盛岡市の住宅政策、エネルギー政策や環境・森林保全政策を前進させてまいります。（平成26年9月議会）

これまでの活動について

身近な問題を真剣に

基礎自治体の議員は身近な問題を真剣に行う姿勢と行動力が不可欠。

生活相談から地域環境の向上、様々な困りごとに対応をしてまいりました。

写真は北上川河川敷の大規模な伐採を実施したところ（神子田町付近）

また、2期8年の全ての議会に登壇し、市政全方位にわたる政策論争を展開。

待機児童対策・財政問題・公共施設老朽化対策・産業振興策・教育振興で多くの提案を行ってまいりました。

実現しました

- 仙北町駅自由通路エレベーター設置
- 山田線増発社会実験
- 大ヶ生金山万寿坑の改修
- 北上川河川敷大規模伐採
- 市道の拡幅実施（東見前・西見前）
- 森林の適正管理（山岸・三ツ割地区）

など

山田線の増発社会実験を実施中

初当選の際（平成19年）の鈴木一夫の公約は山田線活性化。その山田線では、平成25年9月年から2年半山田線を活用した社会実験が行われております。夕方2往復の増発と駐車場の整備が行われ、山田線ファンクラブも立ち上がりました。

写真は山岸地区の住民が参加するワークショップのようす